

日本分析化学会九州支部

支 部 ニ ュ ー ス

第 48 号 2023 年 9 月

九州支部ウェブサイト

http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/

2023 年度 日本分析化学会九州支部

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
大分大学工学部共創理工学科 応用化学コース

支部活動報告

❖ 2023年度 第1回常任幹事会 ❖

2023年6月10日(土)、熊本城ホール3F会議室において日本分析化学会九州支部2023年度第1回常任幹事会が開催されました。議事録は支部ウェブサイトに掲載しております。下記リンクよりご覧下さい。

http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/current/23minutes1.pdf

❖ 2023年度 日本分析化学会表彰 ❖

2023年度の日本分析化学会学会賞に九州支部より佐賀大学工学部 高椋 利幸 教授が「有機分子の溶存構造に関するマイクロからメソスコピックレベルにおける分析法の開発」の業績にて、九州大学大学院農学研究院 松井 利郎 教授が「食品因子の生体利用性に関する分析化学的研究」の業績にて選ばれました。技術功績賞に関しては、三菱重工業(株) 澤津橋 徹哉 主席研究員が「PCB 無害化処理プロセス用オンライン迅速分析技術の開発とその社会実装」の業績で選ばれました。

加えて、2023年度の日本分析化学会奨励賞には九州大学中央分析センター 稲田 幹 准教授が「環境・エネルギー問題解決のためのセラミックス開発と構造解析」の業績にて選ばれました。今年度は受賞者が多く、九州支部の高いアクティビティーが示されました。受賞者の皆さまの今後の益々のご活躍を期待しております。

❖ 2023年度 九州分析化学奨励賞 ❖

選考委員会による審査の結果、2023年度九州分析化学奨励賞の受賞者は以下の4名に決定いたしました。おめでとうございます。受賞者の方には今後の発展と共に、分析化学会および支部活動への貢献を期待いたします。また、次年度も会員の皆さまからの本奨励賞への積極的な応募をお願いいたします。

受賞者・受賞題目

○ Fateme Kaladari さん
(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

「Development of signal multiplication system using quinone for non-enzymatic immunoassay」

○ Ganjar Fadillah さん
(熊本大学大学院自然科学教育部)

「Electrodialytic device with a molecularly imprinted membrane for switching analytical chiral amino acids separation and analysis」

○ 小柳出 麻衣 さん
(九州大学大学院薬学府)

「ヒドロキシアミノ酸鏡像異性体の多次元HPLC分析法開発とヒト血液および尿中含量の解析」

○ 金子 諒右 さん
(九州大学大学院工学府)
「細胞状態の迅速かつ精密な定量分析を可能にする「ヒト直交性」酵素群の開拓」

❖ 第60回 化学関連支部合同九州大会 ❖

共催：(公社)日本分析化学会九州支部ほか7化学関連支部

期日：2023年7月1日(土)

会場：北九州国際会議場

分析化学関係の依頼講演(15:55~16:25)

・黒木 孝行 先生(日揮触媒化成株式会社)
「機械学習手法を活用した触媒加速劣化処理の条件推定」

ポスターセッション(分析化学分野 12:30~13:30)
AC-4-001~AC-4-047)まで計46件

他のセッション等については、大会ホームページ(<https://godo-kyushu.jp/godo/index.html>)をご覧ください。

2023年度九州分析化学ポスター賞の受賞者は、審査の結果以下の5名に決定いたしました。おめでとうございます。受賞者の皆さまには今後の更なる発展を期待いたします。

○山崎真瑚(山口大学)
「炭酸緩衝液中で機能するNi・Co水分解触媒の開発と活性構造の機能解明」

○竹下奈津美(九州大学)
「マイクロ波によるW/Oエマルションの加熱挙動とその機構」

○千々岩風音（熊本大学）

「抗 EpCAM アプタマー修飾金フィルターによる血中循環腫瘍細胞の可逆的捕捉」

○山本真綾（九州大学）

「環状ナフタレンジイミド固定化電極と逆転写酵素を組み合わせた RNA 検出法の開発」

○角浜孝紀（熊本大学）

「ニトロフェノール化合物における損失を抑えた大気採取フローの構築」



九州分析化学ポスター賞受賞者の皆さん

❖ 九州分析化学若手の会 第36回 若手研究講演会
および第41回 夏季セミナー ❖

主催：九州分析化学若手の会・日本分析化学会九州支部

期日：2023年7月28日（金）～7月29日（土）

会場：ホテルクラウンパレス北九州

内容：分析化学に関する若手研究者間の勉強会、講演

○招待講演1：中屋 佑紀 先生

（北海道大学大学院工学研究院）

「固体・フロントフェイス励起蛍光マトリクス分光法による環境試料の分析」

○招待講演2：藤井 聡 先生

（九州工業大学大学院情報工学研究院）

「AI とのつきあい方 ～非染色顕微鏡画像から細胞を検出する深層学習モデル～」

○九州分析化学奨励賞授賞式・受賞講演

○九州分析化学ポスター賞受賞者模範ポスター発表

○一般発表：（審査の結果、4名の方が九州分析化学若手賞に選出されました。）

○総会

○情報・意見交換会

世話人：九州工業大学大学院工学研究院 佐藤 しのぶ

7月28日（金）～29日（土）の日程で、第36回若手研究講演会および第41回夏季セミナーを開催いたしました。今年は、久々の対面開催とし、北九州黒崎のホテルクラウンパレス北九州で開催いたしました。久々の対面開催となる前に、5類となった新型コロナウイルスの感染者が少しずつ増加していく状況であったため、今回は一般ポスター発表の受付を制限（各研究室3名まで）とさせていただきましたが、多くのご参加（参加登録者数：96名、研究室：23）を頂きました。

1日目は、開会式後、九州分析化学奨励賞を受賞された4名の方の授賞式と第60回化学関連支部合同九州大会において九州分析化学ポスター賞を受賞された5名の方に対する九州分析化学ポスター賞授賞式が執り行われました。授賞式では、支部長の井上 高教 先生（大分大学）から受賞者への賞状の授与、並びに受賞者への祝辞と激励のメッセージを頂きました。



支部長 井上 高教 先生による開会あいさつ



九州分析化学奨励賞受賞者



九州分析化学ポスター賞受賞者

その後、2件の招待講演より、夏季セミナーが開始されました。九州支部では北海道支部との交流事業を継続して行っており、交互に支部の研究者の派遣を行っています。今年は、北海道支部より講師として来ていただいた北海道大学の中屋 佑紀 先生による「固体・フロントフェイス励起蛍光マトリクス分光法による環境試料の分析」という講演が行われました。固体・フロントフェイス励起蛍光マトリクス分光法の説明から、環境試料、とくに土壌粉体の分析について、先生の研究を中心に紹介いただきました。座長は、梅木 辰也 先生（佐賀大）にご担当頂きました。続いて、九州工業大学の藤井 聡 先生には、「AI とのつきあい方 ～非染色顕微鏡画像から細胞を検出する深層学習モデル～」という題目で、講演いただきました。今後、AI はますます身近なものになっていくことから、最新のAI の利用研究について紹介いただきました。座長は、末田 慎二 先生（九工大）にご担当頂きました。いずれのご講演も、通常の学会では聴くことができないような内容で極めて興味深く、質疑応答も活発に行われました。



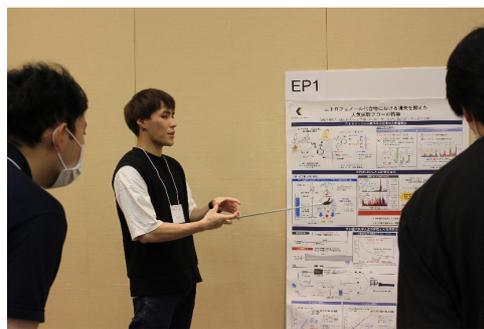
北海道大学 中屋 佑紀 先生による講演



九州工業大学 藤井 聡 先生による講演

次に、九州分析化学ポスター賞受賞者5名による模範ポスター発表が行われました。各ポスター発表では、各模範ポスターでのサポート役を大平 慎一先生(熊本大), 北村 裕介 先生(熊本大), 江藤 真由美 先生(大分大), 田中 充 先生(九大), 梅木 辰也 先生(佐賀大)にご担当頂きました。サポートの先生の進行のもと、各発表者の前には、多くの学生および教員が集まり、活発な議論が行われ、いずれも、参加した若い研究者がこれから優れたポスター発表を行うための良い手本となる発表となりました。

九州分析化学ポスター賞受賞者は以下の通りです。
○角浜孝紀 さん（熊本大学大学院自然科学教育部）「ニトロフェノール化合物における損失を抑えた大気採取フローの構築」



角浜さんの発表の様子

○竹下奈津美 さん（九州大学大学院生物資源環境科学府）「マイクロ波による W/O エマルジョンの加熱挙動とその機構」



竹下さんの発表の様子

○千々岩風音 さん（熊本 大学大学 院先端 科学研究部）「抗 EpCAM アプタマー修飾金フィルターによる血中循環腫瘍細胞の可逆的捕捉」



千々岩さん発表の様子

○山本真綾 さん（九州工業大学大学院工学府）「環状ナフタレンジイミド固定化電極と逆転写酵素を組み合わせた RNA 検出法の開発」



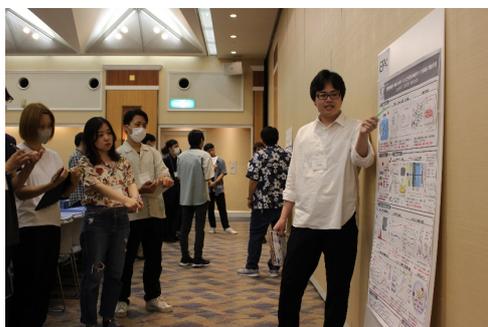
山本さん発表の様子

模範ポスター発表終了後に、35 件の一般ポスター発表を行いました。対面でのポスター発表は、発表者および質問者の熱量が高く（空調の調子も少し悪かったのですが）、活発な質疑がどのポスター発表でもみられ、ポスター発表が行われました。九州分析化学若手賞の審査は職員およびポスター発表者を含む全員で行いました。



一般ポスター発表の様子

○山崎真瑚 さん（山口大学大学院創成科学研究科）「炭酸緩衝液中で機能する Ni・Co 水分解 触媒の開発と活性 構造 の 機能 解明」



山崎さん発表の様子

1 日目の最後に情報・意見交換会を行いました。夕食の後に、参加いただいた 23 の研究室の研究室紹介も行いました。この研究室紹介によって、分析化学会九州支部ではどのような研究が行われているのか、どんな研究室なのか、どんな先生がいるのかについて、各研究室で工夫された紹介がなされました。この研究室紹介で学生同士の交流も見られました。



情報・意見効果員会の様子

2日目は、4名の九州分析化学奨励賞受賞者による受賞講演がおこなわれました。いずれの受賞者も、完成度の高い講演であり、各講演者にはいくつかの質疑にも対応いただきましたが、活発な質疑が行われました。今後の九州の分析化学分野を担っていただけるような益々のご活躍を祈念致します。座長は、世話人である佐藤、北村 裕介 先生（熊本大 自然）、岸川 直哉 先生（長崎大薬）、田中 充 先生（九大院農）にご担当頂きました。



奨励賞講演の様子

○Fatema Kaladari さん
 （長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）
 「Development of signal multiplication system using quinone for non-enzymatic immunoassay」



Fatema Kaladari さん講演の様子

○Ganjar Fadillah さん
 （熊本大学大学院自然科学教育部）
 「Electrodialytic device with a molecularly imprinted membrane for switching analytical chiral amino acids separation and analysis」



Ganjar Fadillah さん講演の様子

○小柳出 麻衣 さん
 （九州大学大学院薬学府）
 「ヒドロキシアミノ酸鏡像異性体の多次元 HPLC 分析法開発とヒト血液および尿中含量の解析」



小柳出 麻衣 さん講演の様子

○金子 諒右 さん
 (九州大学大学院工学府)
 「細胞状態の迅速かつ精密な定量分析を可能にする
 「ヒト直行性」酵素群の開拓」



金子 諒右 さん講演の様子

続いて、九州分析化学若手の会総会を開催し、今年度の夏季セミナー世話人である佐藤から年間行事と会計についての報告が行われ、承認されました。また、また、来年度の夏季セミナーの世話人は鹿児島大学の児玉谷 仁先生、満塩 勝先生が担当されます。鹿児島での開催について、魅力的な資料でご案内いただきました。

最後に、ベスト質問賞と、一般ポスター賞のポスター賞である九州分析化学若手賞を授与しました。ベスト質問賞は、セミナー全体を通じてよい質問をしてくださった以下の4名に授与しました。

- Fatema Kaladari さん(長崎大学大学院)
- 小柳出 麻衣 さん(九州大学大学院)
- 金子 諒右 さん(九州大学大学院)
- 山中 皓太 さん(九州大学大学院)



ベスト質問賞受賞者

九州分析化学若手賞の受賞者は以下の通りです。

- 中島 望吾 さん(九州大学農学研究院)
 「誘導体化 LC-MS 法を用いた Hyp 含有ペプチドの腸管膜透過性評」

○持永 勝也 さん(北海道大学大学院工学院)
 「マイクロプレートリーダーを用いた酵素活性測定に基づく細菌定量法の開発」

○朝比奈 雄志 さん(熊本大学大学院先端科学研究部)

「Ru 複合錯体を鋳型特異的に連結脱離する DNA プローブの設計と核酸検出への応用」

○古賀 鈴二さん(鹿児島大学理学部)

「鹿児島湾生体試料中の水銀及びセレン濃度と海底火山活動の影響」

みなさま、受賞おめでとうございます。



九州分析化学若手賞受賞者

本年度の夏季セミナーの運営に際し、九州支部を始めとして、多くの方から多大なお力添えを頂きました。5月にコロナウイルスが2類から5類感染症へと移行され、対面開催の準備を進めてまいりましたが、6月末から感染者数も徐々に増加し、身近な人もコロナウイルスに感染してしまう中、ポスター件数を制限させていただき、開催することとなりました。例年130人以上参加するセミナーでしたが、参加人数も当初より100名までと制限させていただいたなかで、久々に対面で開催いたしました。事務局側の対応に不備があったかと思いますが、参加者皆さまのご協力をいただき、2日間にわたるセミナーを、大過なく終えることができました。講演者、座長の先生方並びにご参加いただいた皆さま、そして運営にご協力いただきました全ての方々に、深く感謝申し上げます。



参加者一同の集合写真

次年度は、鹿児島での開催になっております。児玉谷 仁先生、満塩 勝先生による、さらに充実したセミナーとなるものと期待しています。皆さまと鹿児島でまた活発なセミナーに参加できますよう楽しみにしています。

【九州工業大学 佐藤しのぶ】

❖ 第 61 回 分析化学講習会 ❖

主催 日本分析化学会九州支部

共催 福岡市, 九州大学先端科学技術研究所 (ISIT), 九州大学学術研究都市推進機構, 日本化学会九州支部, 電気化学会九州支部, 日本薬学会九州支部, 日本食品科学工学会西日本支部, 日本農芸化学会西日本支部, 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部, 日本臨床化学会九州支部, 日本水環境学会九州支部, 化学工学会九州支部事務局, 福岡県環境計量証明事業協会

▼ 会場

九州大学伊都キャンパス

(〒819-0395 福岡市西区元岡 744)

九州大学馬出キャンパス

(〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1)

福岡大学理学部

(〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1)

福岡市産学連携交流センター

(〒819-0388 福岡市西区九大新町 4-1)

▼ 講義と実習・期日

1. GC ガスクロマトグラフィー

8月8日 九州大学伊都キャンパス

講師：(熊本県立大) 白土英樹, (九大院農) 井倉則之

- A. 化合物の同定 (保持指標, マススペクトル)
- B. 定量分析 (内標準法)
- C. 試料導入法 (スプリット法, スプリットレス法)
- D. 香気成分のサンプリング (固相マイクロ抽出法)
- E. 食品の香気成分分析 (GC-MS 法)

2. HPLC 高速液体クロマトグラフィー

8月9~10日 九州大学馬出キャンパス

講師：(九大院薬) 浜瀬健司, (福岡大薬) 巴山忠

- A. 逆相 HPLC の基礎実習と実試料分析 (医薬品・化粧品分析)
- B. HPLC 機器の内部構造とメンテナンス
- C. HPLC 用超純水製造装置
- D. 超高速全自動プレカラム誘導体化アミノ酸分析
- E. AI 支援による自動 HPLC メソッド開発システムの紹介
- F. 逆相モード, HILIC モードを用いた低分子化合物の分離~汎用から最新の高速分析カラムまでのカラム選択~
- G. 極性化合物分析へのアプローチ
- H. イオンクロマトグラフィーによる水, 大気などの環境分析ならびに各種品質評価
- I. 卓上小型 MS 検出器 ACQUITY QDa を用いる新感覚 LC-MS 分析
- J. 円二色性検出器を用いたキラル分離

3. ICP-MS 誘導結合プラズマ質量分析法

8月8日および9日 九州大学伊都キャンパス

講師：(九環協) 天日美薫

- A. 無機分析に関する基礎
- B. 固相抽出法等による前処理
- C. マイクロピペッターの精度管理とメンテナンス
- D. ICP-MS 法による金属分析及びメンテナンス

4. X-ray X線分析

8月22日 福岡大学理学部

講師：(福岡大理) 栗崎敏, 市川慎太郎

- A. X線分析 (回折, 蛍光 X線分析) の基礎に関する講義と測定及びデータの解析

5. SEM/TEM 電子顕微鏡分析

8月1日 福岡市産学連携交流センター

講師：(九大院理) 宇都宮聡

- A. 電子顕微鏡分析 (SEM/TEM) の基礎に関する講義と SEM/TEM による試料観察

6. NMR 核磁気共鳴分光法

8月7日 福岡市産学連携交流センター

講師：(九大院理) 松森信明

- A. NMR の基礎と溶液 NMR の測定法
- B. 有機物質の構造解析

▼ ランチョンセミナー (8/9・10, 12:00~13:00, HPLC 会場)

▼ 使用機器 日立ハイテクノサイエンス, サーモフ

ィッシャーサイエンティフィック（ジェイ・サイエンス西日本）、東ソー、島津製作所、日本分光、日本ウォーターズ、ジーエルサイエンス、エムエス機器、大阪ソーダ、メルク、オルガノの提供による最新機器

▼ 申込方法

申込締切 7月7日（金）

参加費（税込）

主催・共催会員 35,000 円（非課税）

会員外 45,000 円（税込）

学生 15,000 円

▼ 問合せ先

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-3

鹿児島大学大学院理工学研究科化学プログラム

bunkou2023@envchem.sci.kagoshima-u.ac.jp

実行委員長 富安卓滋 099-285-8107

庶務担当 神崎 亮 099-285-8106

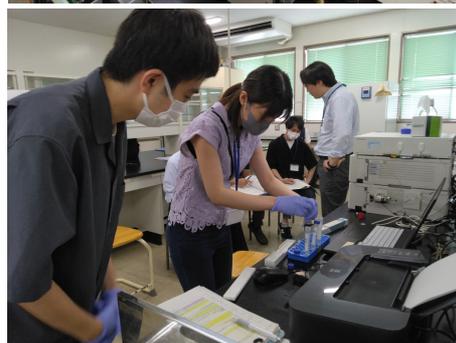
会計担当 児玉谷 仁 099-285-8108

第61回分析化学講習会が8月1日から8月22日にかけて、九州大学伊都キャンパス、九州大学馬出キャンパス、福岡大学七隈キャンパス、福岡市産学連携交流センターの4会場で開催されました。受講生は54名（うち学生3名）、延べ82名となり、遠方では三重や愛媛からもご参加いただきました。

九州大学伊都キャンパスでは、GCコースが8月8日にICP-MSコースが8月8、9日に開講されました。GCコースは白土講師(熊本県立大)と井倉講師(九大院農)にご担当いただき、GCの基礎や揮発性成分の抽出法などの講習が行われました。受講生にとっては様々なGC分析を体験することができたと思います。ICP-MSコースは天日講師(九環協)にご担当いただき、無機分析に関する基礎から金属分析及びメンテナンスまで、基礎から実践までの幅広い実習が行われました。

九州大学馬出キャンパスでは、浜瀬講師(九大院薬)と巴山講師(福岡大薬)によるHPLCコースが、8月9日から10日にかけて実施されました。実習内容は逆相HPLCの基礎実習と実試料分析(医薬品・化粧品)、HPLC機器の内部構造とメンテナンス、HPLC用超純水製造装置に加えて、超高速全自動プレカラム誘導体化アミノ酸分析、AI支援による自動HPLCメソッド開発システムの紹介、逆相モード、HILICモードを用いた低分子化合物の分離、極性化

合物分析へのアプローチ、イオンクロマトグラフィーによる水、大気などの環境分析ならびに各種品質評価、卓上小型MS検出器ACQUITY QDaを用いる新感覚LC-MS分析、円二色性検出器を用いたキラル分離でした。3年以上続いたコロナ禍で協力して下さるLCメーカーが減るかと思われましたが、一社も欠けることなく再開できましたことに深く御礼申し上げます。登録人数は30名（うち1名が台風の影響で欠席）でした。最終日にはHPLC分析士の修了試験を行い、20名が合格しました。



HPLC 実習の様子

福岡大学理学部では、8月22日に、栗崎講師(福岡大理)と市川講師(福岡大理)によるX-rayコースが開講されました。X線回折法の原理や蛍光X線法との比較、固体試料の前処理や試料調製、測定に関する解説の後、X線回折による結晶解析や蛍光X線分析による粉末試料中各種元素の定量が行われました。

福岡市産学連携交流センターでは、8月1日に宇都宮講師(九大院理)によるSEM/TEMコースが、8月7日に松森講師(九大院理)によるNMRコースが開講されました。両コースともに午前中は装置の原理などを座学で学びました。午後からはSEM/TEMコースでは3台の電子顕微鏡を使用し、受講者が1人ずつ操作しての実習を行いました。また、NMRコースでは装置使用やチャート解析の経験に合わせて装置の操作から解析までの流れを実習してもらいました。



SEM/TEM の講義・実習の様子



NMR の解析実習の様子

第 61 回分析化学講習会は、コロナ禍のために 2019 年に開催された第 60 回から 4 年ぶりの開催となりました。久しぶりの開催となった上に、インボイス制度の導入や台風 6 号の襲来などさまざまに対応を求められる事柄も起こる中、不慣れな事務局ではありましたが、講習会の準備や運営に精一杯勤めてまいりました。十分に貢献できたのかわかりませんが、事務局を担当する中で、分析化学講習会は社会から必要とされていることも改めて強く感じ

た次第です。台風等自然災害については、第 60 回の経験を活かして、事前に対応について確認してあったとは言え、各コース担当者の適切な対応、そして、参加者の皆さまのご理解とご協力により大きな混乱なく乗り切れたものと思っています。そして、何より講習会が再開でき、そして、無事に終えることができたのも、ご協力いただきました幹事会社様、協力会社様、ご助言、ご助力をいただきました九州支部の先生方皆さまのご支援があったのでした。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

❖ 日本分析化学会第 72 年会 ❖

期日：2023 年 9 月 13 日（水）～ 15 日（金）

会場：熊本城ホール（熊本市中心区桜町 3-40）

開催日程：

9 月 13 日（水）：

一般講演（口頭）、産業界シンポジウム、産官学交流カフェ、生涯分析談話会、受賞講演、研究懇談会講演、付設展示会

9 月 14 日（木）：

一般講演（ポスター）、若手講演（ポスター）、ものづくり技術交流会 2023 in 九州、学会賞等授賞式、学会賞受賞講演、付設展示会

9 月 15 日（金）：

一般講演（口頭）、受賞講演、女性研究者ネットワーク、研究懇談会講演、付設展示会

日本分析化学会第 72 年会ホームページ

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsac72nenkai/top>

【ものづくり技術交流会 2023 in 九州 ～分析に役立つ基礎技術～】

日時：9 月 14 日（木）

詳細は以下のホームページをご覧ください。

[https://bunseki-](https://bunseki-innovation.net/mono2023kyushu/index.html)

[innovation.net/mono2023kyushu/index.html](https://bunseki-innovation.net/mono2023kyushu/index.html)

主催：分析イノベーション交流会実行委員会、(公社)

日本分析化学会九州支部

<http://bunseki-innovation.net/>

第 72 年会ならびにもものづくり技術交流会 2023 の詳細は、支部ニュース第 49 号にて報告します。

行事案内

❖ 支部講演会・見学会 ❖

2023年度は、支部講演会・幹事会及び見学会を11月10日（金）に大分県 住友化学株式会社大分工場及び株式会社住化分析センターにて開催予定です。

支部講演会では、公益社団法人大分県薬剤師会検査センター様と住化分析センター様より計2件のご講演を予定しています。支部見学会では、住友化学大分工場内の住化分析センター 大分ラボラトリーを訪問する予定です。

現在のところ、今年度は、支部講演会・幹事会・見学会は現地にて対面開催を予定しています。

事務局より

❖ Analytical Sciences 誌等への投稿のお願い ❖

2022年1月より、Anal. Sci. 誌の出版業務がSpringer Nature (SN) 社に委託されました。

Web site は以下のとおりです。

<https://www.springer.com/journal/44211>

投稿サイトは以下のとおりです。

<https://www.editorialmanager.com/ansc>

分析化学会の会員は、学会のマイページにログインすることにより Anal. Sci. の電子版を、読むことができます。また、投稿料はこれまで同様に無料です。国際的に認知された論文誌は、会員と学会にとって重要なだけでなく、我が国の優れた研究成果を発信して世界的なプレゼンスを高めます。良い研究論文はぜひ Anal. Sci. 誌へご投稿ください。また、他のジャーナル等に投稿される場合も Anal. Sci. 誌の論文を引用頂けたら幸いです。Anal. Sci. 誌の国際プレゼンス向上に、皆さまのご協力をお願いいたします。

また、「分析化学」誌は、2023年度の年間特集が「流」、2024年度の年間特集は「分」です。報文、技術論文、ノート、速報その他の形式があります。総説を日本語でまとめたい方にうってつけかと思えます。また、「分析化学」論文賞、「分析化学」若手

論文賞、J-Stage アクセスランキング賞があります。より投稿しやすい環境を整備することを目的として、論文作成支援制度を発足させました。論文のまとめ方について、ベテラン研究者に助言をいただくことが可能です。ぜひご利用ください。

分析化学誌ホームページ

<https://www.jsac.or.jp/~wabnisk/>

❖ 入会を歓迎します ❖

あなたのお近くに日本分析化学会への入会を考えていただけそうな方がいらっしゃいませんか？是非、入会をお誘い下さい。支部の事務局へご連絡頂ければ入会案内をお送りします。また、入会をご検討中の方に対しては、要望すれば機関紙の見本を学会本部からご提供いただけるそうです。日本分析化学会の会員拡充にどうぞ協力下さい。

日本分析化学会の詳細は、ホームページをご覧ください。<https://www.jsac.jp/>

❖ 編集後記 ❖

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、2023年度はさまざまな活動が再開されています。日本分析化学会九州支部においては、第36回若手研究講演会および第41回夏季セミナーが九州工業大学 佐藤 しのぶ先生のお世話により対面で開催されました。また、第61回となる分析化学講習会が実行委員長の鹿児島大学 富安 卓滋先生のご尽力により4年ぶりに実施されました。いずれの会も多くの皆さまのご参加により盛会であり、活発な支部活動が戻ってきたことを嬉しく感じた次第です。

2023年9月には熊本大学の戸田 敬先生を実行委員長とした分析化学会第72年会が盛大に開催されました。実行委員である九州支部の先生方が一丸となって年會を盛り立てることができたように思います。詳細は次号にて報告いたします。

人の動きが活発になり、コロナだけでなくインフルエンザ感染の増加も聞かれています。これから秋を迎え朝晩が冷え込んで参りますので、皆さま、より一層の体調管理にご留意くださいませ。

【2023年度九州支部副支部長・稲田】



2023 年度 日本分析化学会九州支部 事務局

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
大分大学工学部共創理工学科 応用化学コース

支部長 井上 高教（大分大学工学部）
tinoue@oita-u.ac.jp / 097-554-7898
副支部長 稲田 幹（九州大学中央分析センター）
inada.miki.300@m.kyushu-u.ac.jp / 092-583-7149
副支部長 浅田 泰（株式会社 住化分析センター）
yasushi.asada@scas.co.jp / 097-523-1182（内線 864-6112）
庶務幹事 江藤真由美（大分大学工学部）
etou-mayumi@oita-u.ac.jp / 097-554-7912
会計幹事 鈴木 絢子（大分大学工学部）
suzuki-ayako@oita-u.ac.jp / 097-554-7898